

shin

2014.08

01

信頼の絆で共に伸びゆく新時代 — 全印工連の **CSR** マガジン



▼ CSR 認定企業紹介

株式会社マルワ

社員の働きがいや安心のためのCSRを

システム印刷株式会社

CSRを利用して経営理念を継承したい

▼ CSR 元気企業紹介 「この会社で学べ！」

石井造園株式会社

▼ CSRトピックス

全印工連CSRワンスタ―第5期4社を認定

改正労働安全衛生法公布

コンプライアンス違反倒産過去最多



全日本印刷工業組合連合会

株式会社マルワ

本社：名古屋市天白区平針4-2-11 創業：昭和33年 従業員：35名
代表者：鳥原久資 認定取得：2013年6月 <http://www.naruwameto.co.jp/>

CSRを語るときに一番大事なのは、 社員の働きがいや安心ではないでしょうか。

——CSRに取り組み始めたきっかけをお聞かせください。

鳥原 ISO14001（環境マネジメントシステム）を2002年に取得したのが最初のきっかけです。2005年に愛知万博（日本国際博覧会）の開催が決まり、これからは環境の時代になると私のなかで強く感じたので、ISO9001（品質マネジメントシステム）に続いて取得しました。

しかし、ISOを取得しただけでは、取り組みは長続きしません。そこで、環境報告書を毎年発行することに決定しました。報告書に載せるために、環境活動を継続する必要があるということです。現在は弊社で発行しているニュースペーパー『Printalk』を年に4回発行するなかで、環境のページを作っています。

——マルワでは現在どのような取り

組みを続けているのでしょうか。

鳥原 公園清掃やエコキャップ運動への参加など、さまざまな環境活動を継続しています。カーボンオフセット事業では、地産地消をテーマに、バラ農家さんのCO₂削減装置へ資金提供し、「マルワで印刷するとバラが咲く」とマルワの印刷は環境に優しい印刷物だとお客様にも発信していますね。

MUD（メディアユニバーサルデザイン）にも5年ほど前から積極的に取り組み、お客様から要望がなくても、誰もが使いやすい、見やすく、伝わりやすいメディアにすることを考慮しています。また、MUDのことを分かりやすく伝えるため、MUD折り紙の普及や『見え方の多様性』という冊子の作成、MUD協会の理事としてセミナー講師も担当させていただき、MUDの周知にも取り組

んでいます。

ほかにも、インターシップの受け入れや東山動植物園の花の苗植え活動への参加など、さまざまなCSR活動を継続しています。

——CSRと一口に言っても、マルワの取り組みは多岐にわたっているんですね。CSR活動はどのようにして広げていったのでしょうか。

鳥原 広げていくという意識はなかった、というのが本音です。

強いて言いますと、弊社ではプライバシーマークではなく、ISO27001（情報セキュリティマネジメントシステム）を回しています。ただ、当社のように30人ほどの限られた人数で、ISO担当の部署や社員を置いてすべてのISOを回していくのは非常に大変です。従業員300人以下で品質・環境・情報の

ISOをそれぞれもっているのは、日本でもマルワぐらいだろうと聞いたこともありました。

そこで、弊社ではISOを全社員が分担して取り組むようにしています。

CSRレポート作成にあたって、「環境」・「情報」・「品質」・「広報」・「交流」という5つの委員会を設置しました。社員には5つの委員会のなかからひとつ選んで所属してもらい、委員会単位でISOに取り組んでいきます。

1年に一度、外部の人に来てもらい、ISOの審査をしてもらう機会をもうけていますが、「委員会活動を外の人に審査される」というのもあり、社員がいろいろと自発的に考えるようにもなりました。

また、活動を続けていくこう、発表しようと考えると、同じ活動だけで





はつまらないと思うようになり、そこでもさまざまな活動を自分たちでやる環境が形成されたのだと思います。

—— CSRに取り組み前と後で、会社自体が変わったと感じたことはありますか。

鳥原 社内の風通しがとても良くなったように感じます。

委員会のことをあげれば、ひとつの委員会にさまざまな部署の人間が所属しています。小さな会社でも、制作と営業の人間では立場も違いますが、今までは自分の部署が最優先だったのが、お互いの事情がわかるようになることもあると思います。

—— 全日本印刷工業組合連合会の CSR 認定制度取得の狙いは。

鳥原 チェックリストを確認して、各種 ISO やグリーンプリンテイング認定制度の取得、CSR 報告書の作成、などにしっかりと取り組み継続してきたマルワならば、問題無く取得できるだろうと感じました。

外部的にも、昨年に取得したときと今では、CSR という言葉も大分浸透はじめています。

もし、同じ品質・金額の商品を印刷会社に頼むならば、良いことをしている会社

社から買いたいと多くのお客様は思うでしょう。第三者機関認証を受けているという点をこれからは発信していきたいと思っています。

—— 長年にわたり CSR 事業に取り組むことのできた理由を、鳥原社長自身はどのように分析していますか。

鳥原 私の「一度決めたことは続けてしまおう」という性格が大きく起因していると思います。こういうものを続けるうえで一番大事なのは、リーダーシップという人を巻き込む力です。

そこに加えて、環境活動も CSR 活動も、いろいろなところで取り上げていただいたというのがあります。商工会議所の月刊誌、地元の経済新聞、講演依頼などが増えてきて、マルワの活動が大分認知されてきました。

—— 期待に込めていこうという気持ちも生まれてきたということですね。

鳥原 マルワの持つ印刷機などの設備は、ある程度のレベルは当然揃えておりますが、特殊なものはありません。

そのなかで、マルワが差別化するポイントといえば、やはり「人」です。「資本主義の原点は差異性」だと考え

て取り組んでいます。

—— 設備を用意するのではなく、人を育てていくのは大変難しいことだと思います。

鳥原 例えば、環境活動等に取り組むことだけで、直接に儲けることが可能になるわけではないので、ジレンマは少なからずあります。

ただ、先ほども申し上げたとおり、さまざまな活動が続けてきたおかげで、同じ規模の同業他社と比べれば、マルワの方が名が売れている強みは間違いなくあります。

そういうつながりのなかで、商工会議所や行政の委員も担当し、そこでお会いできた大企業のかたと懇意にさせてもらい、ようやく仕事に結びつくことはありますが、大変な遠回りではないでしょうか。

—— 他社との差別化のポイントとして、CSR に取り組んできたことですが、CSR で大事なことは何だと考えていますか。

鳥原 CSR を語るときに、社会貢献など外に向けた発言が目立ちますが、一番大事なのは社内働いている社員です。社員が 1 週間のうち 8 割を過ごす会社という場を経営していくうえで、働きがいややりがい、安心を提供して、気持ちよく働いてもらうのが CSR ではないでしょうか。



か。

社員に甘い、と誤解されることもあります。ありますが、CSRを真剣にやりすぎてしまえば社員もきついですし、私も同じ気持ちです。

CSR失敗の種に、就業時間外に無理な活動をさせることがあります。マルワが3つのISOを取得するにあたり開いた会議も、すべて勤務時間内です。時間外は基本的にありえないですし、そんな片手間で行われるものでもありません。CSR活動のなかには土日での行事参加もありますが、先ほどお話しした公園清掃等は、勤務時間内におこなっています。

——外部だけでなく、社員も含めたステークホルダーに広えてこそ

の、CSR活動ということですね。

鳥原 経営者から見たCSRは、経営者の驕り・慢心・過信を止める役割をもち、正しい経営に向かわせるものです。

会社は動きを止めてしまえば、一気の後退してしまいますので、CSRは会社を止めないための方策なのではないかとも思います。社会貢献・環境ばかりがクローズアップされますが、それだけが本当のCSRだと私自身は思いません。

正しい経営に向かう上での極端な例を出しますと、違法コピーのソフトは使つてはいけませんし、再生紙じゃないものを再生紙と言つてはいけません。経営者の不正を目にした瞬間、ステークホルダーからは「言っていることと違うじゃないか」と思われてしまいます。

一方で、CSRの旗振り役は私も、社員には自分たちで考えて活動してもらいますので、仕事以外の仕事が増えてしまうことを踏まえて、時間はきちんと確保させています。

CSRはあくまで、自発的に役に立とう、お客様に喜んでもらうように、そして、社員に喜んでもらうように行動するものです。

マルワの規模でここまでの活動を

継続出来たのも、社員が主体的に挑む空気や風土、環境を作ってきたからだと思っています。

——マルワの取り組んでいる活動には、インターシップの受け入れもそうですが、地域社会への貢献を強く感じます。

鳥原 インターシップは社員教育も兼ねている面もありますが、私自身、地域社会に貢献しようという想いも当然強いです。

マルワも先代が地元の商店街の理事長を担当していましたが、本来のCSRは地域貢献なのではないか、とも思います。

——CSR事業にこれから取り組んでいくうえで、アドバイスがあればお願いします。

鳥原 皆さん自身が気づいていない



関連会社の有限会社 HIME 企画のオフィス

だけで、実は皆さんもCSR活動に取り組んでいるのではないかと思います。隣近所の清掃活動だって立派なCSR活動です。意外にこれって良いコトなのでは？ という視点で一度見ていただきたいです。

ただ、一番大事なのはCSRをやることもですが、その活動をどう発信するか、お客様に伝わっていないことをどう伝えるかが大事です。

先代から受け継がれているマルワの経営理念は「人が集い社会に発信する会社。それが私たちマルワです」。それが印刷会社として今後、もつと必要になるでしょう。

発信の形として、お客様のところに簡単なニュースレターを持つていくところからでも、社員のモチベーションはきつとあがります。

儲けたいとか、外だけに目線をシフトしていくと、視野は非常に狭くなります。CSRは企業の社会的責任は、社会貢献だけではありません。社員の永続的雇用も企業が果たすべき立派な社会的責任です。

実は社員のために会社が何をしているか、何をしていくかと考えていけば、やっていること、やっていくことはたくさんあります。

システム印刷株式会社

本社：東京都日野市高幡1012番地の13 創業：昭和43年 従業員：12名
代表者：根本和士 認定取得：2013年6月 <http://www.system-print.jp/>

私の働いている背中を見せるために、 CSR認定制度はうつてつけでした。

——まずは普段の仕事内容からお聞かせください。

根本 1968年（昭和43年）に写植業として起業して以来、デジタル化の流れなども受けながら、さまざまな経験を活かして印刷の事業へと徐々に取り組んでまいりました。印刷物のうちでは、記念誌など記録していくものの、文字を並べていくものが得意です。

約10人で回っている小規模会社ですが、ここ東京都日野市では地域の印刷屋として、官民から多くの仕事を請け負っています。

——地域に根差した印刷会社として活躍なさっているんですね。

根本 東京都の話になりますが、極端に大きい会社は市町村単位の小さな仕事を請け負わないため、われわれのような規模の会社でも、日野市を代表する印刷会社として有名に

なってきました。今では各種団体からのお声がけをいただき、商工会や法人会の役員、市の行政委員も頼まれています。

当然、地元の商店街に対しても、祭りやイベント事には金銭・人員の両面から協力しています。

ただ、われわれ自身は地域に対して惜しみなく、一生懸命にやっています。たつもりでも、「第三者から見えてどう思われているのだろう」という不安はずっとありました。

——地域に貢献してきた、という努力の成果を自身で判断するのは大変難しいことだと思います。

根本 私がCSR認定制度の話をいただいたのは、まさにそういったことでした。

①コンプライアンス②環境③情報セキュリティ④品質⑤雇用⑥財務・業績⑦社会貢献・地域志向⑧情報開

示・コミュニケーション、という8つの項目を通じて、他者から自社がどう見られているかを判断する良いきっかけになりました。

ワンスターの認定をいただいたことは、会社の勲章です。

——宣伝ではなく、CSR認定を第三者からの評価資料として活用したのですね。

根本 もう一つ、CSR認定を取得した理由に、「事業継続における、私の経営理念を伝えたい」というものがありました。

現在は商工会の役員を子供たちが引き継いでくれています。子供たちにも私が続けてきたことを父親として継続してほしいと考えており、現在はそのことを教えている最中です。

会社として利益を追い、品質に責任をもつのは、会社自体の存続や社

員の生活のことを踏まえば当然のことです。しかし、息子には私が長年続けてきた、地域や社会に貢献していくという精神も受け継いでもらいたい。

私の働いている背中を見せること、言葉で形にすることで、会社とは何をするかを伝えていくこともあります。例えば、守秘義務をちゃんと守っているか、外注先にも守らせているか、私たちがお客様の印刷物を独自に配布しては決してならない、などです。しかし、思想の伝承に関しては非常に難しいと思います。そういったなかで、私の気持ちを何らかの形として示していくには、CSR認定制度はうつてつけでした。

——何故、そういった地域事業への参加を継承していこうとお考えになったのでしょうか。

根本 私が最初に参加したときは、



商工会や法人会等、地域の顔役を務めてきた根本純夫会長



「印刷屋がここにありますよ」と営業の気持ちが行先していました。しかし、実際に入っているいろいろな役割を担当していくと、自分自身が成長し、必要とされる人間にもなれました。

印刷会社は絶対になくならない仕事だと思っていますので、「システム印刷が日野市にある」ということ、そして地域の方々に「相談すればなんとかなるよ」と思っていただけでしょう、人間として成長していくなかで、人と人のつながりを息子にも大事にしてほしいです。また、お祭りなどの行事で「根本さんの息子が一生懸命働いていたよ」と言われると、非常に嬉しい気持ちになります。

——システム印刷の会社規模でCSR認定取得に取り組んでいくの

は大変ではありませんでしたか。

根本 私自身が旗振り役となることで、順調に進めることができました。また、少人数だからこそ、最小限必要なお客様に安心・信頼していただきたいという、取得意義もあります。印刷会社としてわれわれが特別にPR出来る分野もいくつかありますが、大きな会社にも及ぶものがない分野もあります。しかし、認定・認証を取得することで「小さいながらもこれだけ努力しております」としつかりと示すことも大事です。子供たちには「山椒は小粒だけどピリリと辛い」と、私たちの殻にあった仕事をたくさん頂戴してこうと伝えていきます。

——それだけCSR認定制度の内容が良い、と感じているのですね。

根本 私は同じ規模の会社にも、どんどん挑戦する勇気をもっていたみたいです。事業を継承していく面でも役だってくれと先ほど申し上げましたが、それだけでなく、今後も会社を存続させるために構成するバックボーンのひとつになってくれます。

まずはホームページ上からチェックシートをダウンロードして、該当するところにチェックしてみてください。CSR認定には8つの項目があげられていますが、すべての項目が

100%こなせているということは決まっていでしょう。自社の弱さはどこにあるのか、見つめ直す良い機会となるはずです。また、弊社ではチェック項目の根拠となる資料を探していくなかで、当時の自分たちの努力や忘れていた想いを、会社の軌跡とともに呼び起こすきっかけになりました。

当然、CSR認定をもらえた、という自己満足で終わってはいけません。将来的にはスーパースターに取り組んでいくことも現在検討しています。

——CSR認定以外にも、プライバシーマーク制度にはじまり、JPPS（日本印刷個人情報保護体制認定制度）やGP認定（グリーンプリンティング認定制度）も、システム印刷では取得していますが、こちらはこういった考えのもとで取得をなさっているのですか。

根本 CSR認定もそうですが、印刷の品質や機密保持は印刷の基本事項なので、プライバシーマークやJPPS、GP認定も本来は取得して必須の項目だと考えていますし、取得するしないを抜きにしても、会社が存続していくうえで、こちらも大きなバックボーンになります。

繰り返しになりますが、印刷の基

本は「機密保持」が絶対条件です。そこにどれだけのガードを築けているか、信頼を生むためにも大事です。われわれのような小規模会社の設備ではどうしても外部委託も往々に起きてしまうため、JPPSを取得したのもその歯止めです。

また、われわれのように官公庁の仕事が8割以上を占めている会社において、GP認定などの第三者機関からの評価は信頼を形成していくうえで非常に大事だと思います。

——官公庁との関係はシステム印刷が長年に渡り積み重ねてきた、相互の信頼関係も当然あることだと思います。

根本 積み重ねてきた信頼あつてのものなので、認定取得に関しては営業の武器にできた、とまでは言いません。しかし、何十年と築いてきた信頼のうえに、あらたな信頼を重ねることができたとは感じていますし、実際に大きな力になっています。

CSRマークもまだまだ認知度は低いかもしれませんが、「このマークは一体どういうマークですか？」と皆さん興味を持たれるので、今はそれでも十分です。

お客様と仕事の話だけしてサヨナラ、で終わるのではなく、そういった会社の一面を話すコミュニケー

シヨンやPRの種に活用しています。「われわれはCSRの認定取得を受けていますよ」、「歴史と経験がありますよ」と取得の内容などを話すこともできますので、営業面でもプラスになっていると思います。

——機密保持、環境（品質）が大事だと根本会長は仰いましたが、ほかに重要な要素があればお聞かせください。

根本 「建物」の重要性はとても大きく捉えています。

お客様は建物を見て会社を判断する、というのがありますが、弊社は大きな地震が来ても崩れないように建設しました。2階に印刷機を置いています。2階に印刷機を置いているので、それだけ重いものに乗せても問題ないようにコンクリートを詰めて、関東大震災の際にもまったく印刷機は動きませんでした。また、環境を整えることで、普段働いてくれている社員のためにも、そして印刷会社の社会的評価にもつながっていくと思います。

——いまだに3Kのイメージを持っている業界外のかたは多いと感じます。

根本 内部的には払拭されつつあるものの、世の中に悪いイメージが浸透するのは避けなければなりません。また、そのような環境では働く人が

長くいてくれない会社、良くない会社にもなってしまうでしょう。

——地域に貢献してきたシステム印刷ですが、今後さらに推進していきたい活動はありますか。

根本 私は福島県岩瀬郡の出身なのですが、震災で被害にあった人たちに向けて、印刷業としてまた支援ができないかと考えています。

——具体的にはどのような形でしようか。

根本 構想段階の話ですが、震災の被害にあった方々の手記や冊子のようなものを、例えば月に一回・一人でも無料で作ってみたいです。

賛同していただける印刷会社とともに広がりつつあれば、ひと月にもつと多くの数が記録できるようになるはず。

報道機関の作る資料とは違う、家族や友達、家のことなど個人の想いを記した貴重な資料として、個人や図書館で保存していただきたい。

震災から4年目に入り、悲劇の内容を少し冷静に立ち返れる時期にもなってきましたが、印刷業界の支援も下火になってきているように感じます。われわれの手で実際に何ができるかを、長い時間をかけて考えていきたいです。

つれづれしーえすあーる

ATM、AED、OEM、TTP、CSR：いまやアルファベット3文字略語の花盛り。あまりにもたくさんありすぎて「わかりにくい」との批判を受けることもしばしば。

そんな「CSR」の起源は1920年代の欧米。武器・タバコ・アルコールを製造する企業には投資

しないという運動が発端となり、その後、人権問題・消費者運動・環境問題などへの関心の高まりとともに進展した。日本には1980年代の文化芸術支援活動、いわゆる「企業メセナ」とともに輸入されたと考えられる。そんな生い立ちからか、日本ではCSRは比較的「新しいもの」と受け取られがちであるが、実は我が国には古くからCSRに通ずる考え方があった。

「売り手良し、買い手良し、世間良し」は、鎌倉時代から活躍した近江商人の哲学で、「世間良し」と社会を意識しているあたり現代のCSRにも通じるものがある。また日本の近

代化に多大なる貢献をした渋沢栄一翁は「富を成す根源は何かといえば、仁義道徳、正しい道理の富でなければ、その富は完全に永続することができぬ」と、著書『論語と算盤』で倫理（論語）と経済（算盤）の両立を説いている。

このように、企業が社会的責任を負っていると考える方は、日本では特別新しいものではない。CSRがわかりにくいとされる背景には、実は日本では企業人が倫理的に振る舞うのはあたりまえだからという逆説的な理由が隠されているようにも思える。

日本語の「経済」という語は、英語の「economy」の訳であるのは言うまでもないが、その語源は中国の故事である「経世済民」（世を^{おさ}え、民を済^{すく}う）。「家計の管理」に語源をたどる原語の「economy」を超えた意味を日本語に含意させたのは福沢諭吉といわれ、後に本家中国にも逆輸入され今日に至っている。

CSR元氣企業紹介「この会社に学べ！」

石井造園株式会社

代表取締役 石井直樹さん



石井造園株式会社は横浜市栄区にある小さな造園設計施工・土木工事会社。社員数12人の地域零細企業であるが、石井直樹社長の経営理念「企業活動を通して、幸せを共有する企業を目指す」のもと、社員一丸となり、横浜型地域貢献企業として、年間25回以上のCSR活動を継続しておこなっている。

なぜ、地域零細企業である同社がCSR活動を継続することが出来ているのか。石井社長はその理由を「活動」・「システム」のふたつに分けて説明してくれた。

同社のCSR活動の合言葉は「ついでに無理なく、達成感のある活動」。石井社長が20年ほど前にはじめておこなったCSR活動が、まさしくそうだったという。

「リースの終わった弊社の観葉植物は引き上げてしまえば、廃棄処分する必要がある一方、なかには捨てるに忍びない品質のモノも当然ありました。そこで、近場にある養護学校の先生に『園芸療法などに使っていただけないでしょうか』と打診したところ、『是非、譲って欲しい』と大変喜ばれました」

企業の社会的責任——とまで当時は思っていなかったが、大した費用や時間のかかったことでなくても、市民やステークホルダーにとっても喜ばれることがある。当時の石井社長はその仕組みと感謝の気持ちに大きな感動を覚えたという。その後は、青年会議所での運動理念に則った体験や学びをきっかけに、CSR活動へ本格的に取り組むこととなった。

現在も石井社長自らが率先してCSR活動に取り組んでいる。受注した事業の請求金額のうち千円未満の金額を、取引先の了承を得て別途

積み立てておき、さらにその年間合計額と同額を自社が拠出して近隣の緑化活動等に寄付する「緑化基金」や、年間を通して数百本の苗木を配布する植樹行動への参加、長期インターン生の受け入れなど、さまざまなCSR活動を無理なく継続し、推進している。

石井社長はCSR活動においては「CSRの取り組みを、より多くの人に伝えるのも零細企業にはとても大事なことです」と話す。

「弊社はグローバル企業に対する地域企業です。CSR活動を発信し続けたことにより、『横浜 造園』、『CSR 造園』でネット検索をするの一番にヒットします。その結果、『ホームページを見ました』という問い合わせが、週に何度もあります。また、弊社がCSR活動を積極的にしていることを、ホームページで知ってから問い合わせをしているため、弊社に対して最初から非常に良い印象を持っていてくださる方が多く、約50%が実際の受注に繋がります。そして、外部から注目を浴び、実際の仕事に活かしていることが、社員のCSRを続けさせるモチベーション、さらには人間力、最終的には企業価値の向上につながるのです」

石井造園のCSR活動の伝達手段の一部が、毎年発行・開催しているCSR報告書と、CSR報告会だ。

CSR報告書には石井造園が年間でおこなってきたCSR活動のなから、4つほど紹介されている。そのほか、CSR方針、環境・情報公開に対する取り組み、社内・社外からの意

見など、横浜型地域貢献企業として石井造園がどのような想いで、どのように活動してきたかの詳細がつづられている。また、6月の第3週には独自の活動となる「CSR報告会」を毎年開催。石井造園のCSR活動報告だけでなく音楽会も併催し、多くの地域住民やステークホルダーが毎年足を運んでいる。

石井社長の語る、CSR活動で大事なシステムが「PDCA（計画・実行・評価・改善）」だ。年に一度のマネジメントレビューと、各CSR活動における活動記録、この2つをおこなうためのフォーマットを石井造園では用意しており、現場の職人でも簡単に記入し、全社員がそれを共有することが出来る。

マネジメントレビューには石井造園におけるCSRの理念を改めて確認するだけでなく、CSRの目標、目標達成のための活動計画、前期・後期の達成度（反省および担当者・社長の承認）の項目から、CSR推進に向けて取り組んでいる。

CSR活動記録は、いつ・どこで・だれが・なにを・どのように、といった計画をはじめに、ステークホルダー（役に立つ人、喜ぶ人）や社会的インパクトの確認を改めておこない、担当者から承認をもらう。そして後日、CSR事業の効果の確認および反省と、再び担当者から承認を得るための項目を用意している。

「自分たちが何故CSR活動をし

ているのか、そのCSR活動が本当に必要なことかなど、さまざまな自覚を社員に促すことができます。自覚するということは、なんとなくCSRをやるのではなくなるといことなので、このシステムは是非おすすめてほしいと思います。興味をもって本気で取り組みたい方がいらっしやいましたら、説明もいたしますので是非ご連絡ください」

石井造園株式会社

所在地：神奈川県横浜市長区笠間4-11-5

創業：昭和40年3月26日

TEL：045（891）1501

FAX：045（891）2785

従業員：12名

<http://www.shii-zouen.co.jp/>

※石井社長には全印工連CSR認定委員を務めていただいています。



全印工連CSRワンスター

第5期4社を認定

全日本印刷工業組合連合会CSR認定制度の第5期ワンスター認定に4社が認定された。認定されたのは荏原印刷株式会社（東京都大田区）、ヨッハシ株式会社（岐阜県岐阜市）、壮光舎印刷株式会社（東京都荒川区）、株式会社五色（東京都台東区）の4社。

広告、紙卸、メーカー、シンクタンク、地域貢献認定企業経営者など外部の有識者で構成する第5回全印工連CSR認定委員会を開催し、横浜市立大学CSRセンタールの審査報告をもとに厳正な判定を行った結果、第5期ワンスター認定企業として認定されたものとなる。今回の認定でワンスター取得企業は現在73社となった。

全印工連女性活躍推進室

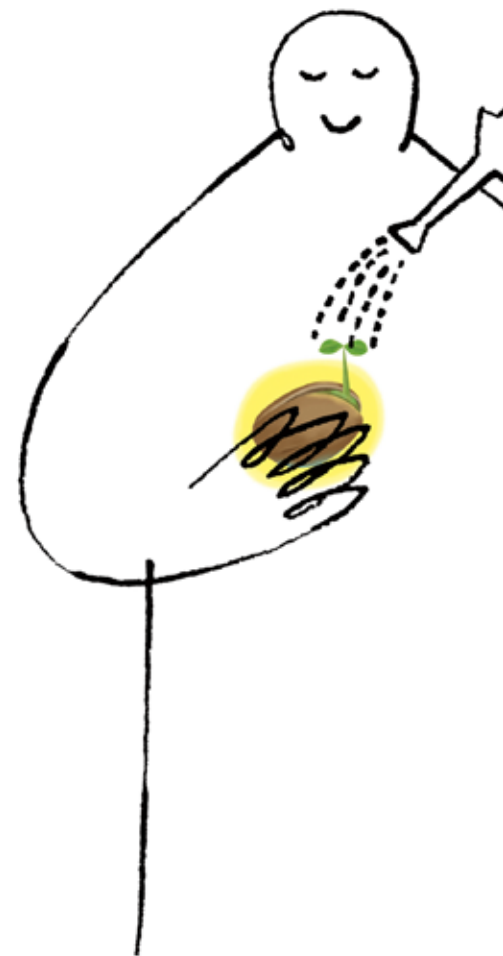
主婦インターンシップへの参加を促進

参加を促進

本年度より設置された全日本印刷工業組合連合会女性活躍推進室では、経済産業省が推進する中小企業新戦力発掘プロジェクト、主婦インターンシップへの参加を促している。実習期間中は経済産業省が実習生への助成金を支給、企業側は育児や介護などで退職した人を、2週間～3カ月間インターンシップ生として受け入れることが可能。

再就職への強い意欲を持つ新戦力人材との出会いにより職場が活性化し、新たな発想や多様な価値観を生み、職場を活性化させることが期待される。

申し込み条件は、①資本金3億



円以下または従業員300人以下（製造業その他）②育児等のための短時間勤務を可能とする就労規定を採用時までに定める予定があること。実習期間は2週間～3カ月間、日数・時間は12日～21日／月、4時間～8時間／日。

問合せは中小企業新戦力発掘プロジェクト事務局

☎ 03（6435）5217まで

改正労働安全衛生法公布

ストレスチェックや

受動喫煙防止措置盛り込む

「労働安全衛生法の一部を改正する法律」が第186回国会で成立し、平成26年6月25日に公布された。近年の社会情勢の変化や労働災害の動向に即応し、労働者の

安全と健康の確保対策を一層充実するために、7つの改正項目が提示された。

- ①化学物質リスクアセスメントの実施義務
- ②ストレスチェック等の実施義務
- ③受動喫煙防止措置の努力義務
- ④重大な労働災害を繰り返す企業への、特別安全衛生安全計画の作成指示
- ⑤法第88条第1項の届出を廃止（大規模工場での生産ライン等の新設、変更における事前届出）
- ⑥電動ファン付き呼吸用保護具が型式検定、譲渡制限の対象に
- ⑦外国に立地する機関も検査・検定期間として登録可能に

なお、各項目で施工時期が異なり、施行は平成26年中から平成28年6月までの間となる。

コンプライアンス違反倒産

過去最多209件

株式会社帝国データバンク産業調査部の「第10回コンプライアンス違反倒産の動向調査」によると、2013年度はコンプライアンス違反企業の倒産が過去最多の209件判明、2012年度を上回り、4.5%増となった。

違反類型別に見ると、「粉飾」が52件判明し、構成比24.9%で最も多かった。以下、「業法違反」が33件（15.8%）、「資金使途不正」が22件（10.5%）と続く。

業種別では「建設業」が56件判明し、構成比26.8%で最も多かった。以下、「サービス業」の43件（20.6%）、「製造業」の34件（16.3%）と続く。

粉飾決算の発覚した情報が、取引先や消費者に伝わるスピードは、年々早くなつてきており、一気に信用収縮を引き起こす。これは景気回復機運が高まる一方で、「業況が悪く、借入金の返済条件変更などで延命している企業が相当数存在する」と認識している企業の経営者や与信管理担当者が、取引先の変動に敏感に反応している

結果とみられる。ゆえに、粉飾が発覚した企業に対する周囲の目は非常に厳しく、これからもさらに厳しくなると想定される。コンプライアンスを遵守できない企業が倒産に至るケースは今後さらに増えることとなる。

※「粉飾決算」や「脱税」、「業法違反」など、帝国データバンクはコンプライアンス違反が取材により判明した企業倒産を「コンプライアンス違反倒産」と定義。2005年4月から集計を開始し、今回は2013年度（2013年4月～2014年3月）までの倒産について分析したものとなる。

CSRはマネジメント視点で

経産省が経営上のメリット指摘

経済産業省は企業のCSRの課題とそのマネジメントに関する調査報告書をまとめた。

本調査によると、CSR課題に関する社会的問題に直面した企業が、その問題に真摯に対応し、体制を強化することで、当該課題に関する先進企業に成長した事例

や、欧米の先進企業がCSR課題に対して先を見越して戦略的に対応を進めることで、企業価値を高めている事例もある。

CSR課題は企業経営に重大なインパクトをもたらしうるリスクであると同時に、戦略的に取り組めば日本企業に多くのメリットをもたらすチャンス。慈善事業として捉えるのではなく、取り組みを進めることがビジネスを成り立たせるうえでも必要不可欠であるという認識で取り組む、マネジメントの視点が重要であるとした。また、その観点からも、すべての課題に網羅的に対処しなければならぬという観念に囚われることなく、各種プラットフォームや他社との連携等も活用して、自社のビジネスにとって重要な課題を特定し、リスクマネジメントの観点から優先順位を認識して取り組むことが重要である。

8割超がブランドイメージ変化 就職活動を通じての意識調査で

電通総研（株式会社電通）は2014年度内定者の大学4年生

および大学院2年生（560サンプル）を対象に、就職活動が企業やブランドに及ぼす影響について把握するための調査をおこない、就職活動中に受けた企業の印象や経験によつて、当該企業やその企業の商品やサービスに対する意識が変化することがわかった。

「就職活動を通じて企業の印象が変化することがあったか」と聞いたところ、全体の83.2%が「変化があった」と回答。また、全体の49.5%が「選考過程で会った社員の表情・話し方」に注目していると回答、55.2%が「選考過程の面接官の印象がよかったので、その企業自体の印象も良くなった」と回答しており、「人Ⅱ社員」の印象が企業の印象に直結していることも明らかとなった。

企業側の視点から捉えれば、企業にとつての就職活動期間とは、将来自社で働く社員を見つける採用の期間であると同時に、学生を未来の顧客と想定し、企業価値や商品価値を伝えることができる、きわめて重要な機会であると考えられる。

CSRに取り組むお客様の 印刷製品づくりを応援する それがCSRマークです。



印刷製品への
CSRマーク表示例

CSRに取り組む印刷会社に仕事を頼みたい。
印刷製品にCSRに取り組んでいる**マーク**を
つけたい。

でも、どこに発注すればよいかわからない。
そんな要望にお応えするのが

CSRマークです。

CSRマークは、印刷業界のCSR基準を達成した印刷会社がつけることができる信頼のマークです。

〈特徴〉

- 公正で信頼できる制度
- CSR研究の第一人者である横浜市立大学の影山教授監修のもと設計された基準を達成した印刷会社を客観的に審査
- 横浜市立大学CSRセンターが審査を実施し外部の有識者で構成される認定委員会で判定
- 基準はすべてホームページで公開
- 認定企業に発注すれば、無料でCSRマークの使用が可能
- CSRマークは印刷会社のCSRの取り組み度合いにより3種類
- 認定番号管理により社会的信頼性を確保

■問い合わせ先

全日本印刷工業組合連合会CSR認定事務局
〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8
TEL.03-3552-4571 FAX.03-3552-7727
<http://www.aj-pia.or.jp/>

認定企業一覧 (2014年8月現在)

北海道	(株)ヒロミ産業	東京	三報社印刷(株)
	(株)プリプレスセンター		創文印刷工業(株)
	(株)アイテックサプライ		(株)アドピア
	中村印刷(株)		荏原印刷(株)
	(株)正文舎		壮光舎印刷(株)
	北陽ビジネスフォーム(株)		(株)五色
	植平印刷(株)		新日本印刷(株)
宮城	(株)東北プリント	愛知	(株)マルワ
	(株)ユーメディア		(株)二和印刷紙業
秋田	秋田印刷製本(株)	三重	木野瀬印刷(株)
福島	(株)日進堂印刷所		ブリ・テック(株)
埼玉	望月印刷(株)		半田中央印刷(株)
千葉	(株)太陽堂印刷所	岐阜	豊橋合同印刷(株)
	(株)総合印刷新報社		伊藤印刷(株)
神奈川	(株)協進印刷	富山	(株)岐阜文芸社
	(株)大川印刷		トーヨー印刷(株)
	関東プリンテック(株)		ヨツハシ(株)
新潟	(株)第一印刷所	滋賀	第一共同印刷(株)
	(株)プレスメディア		朝日印刷(株)
	(株)太陽印刷所		アインズ(株)
	(株)第一製品流通		(株)太洋堂
	(株)あけぼの		(株)ダイム
長野	亜細亜印刷(株)	兵庫	船場印刷(株)
静岡	(株)きうちいんさつ		交友印刷(株)
	日本レーベル印刷(株)	奈良	丸山印刷(株)
	杉山メディアサポート(株)		(株)天理時報社
	日興美術(株)		(株)アイブリコム
	(株)中央パッケージング		共同精版印刷(株)
東京	(株)金羊社		岡村印刷工業(株)
	池田印刷(株)	和歌山	(株)和歌山印刷所
	大同印刷(株)		研精堂印刷(株)
	六三グループ	岡山	広和印刷(株)
	(株)賢工製版		朝日精版印刷(株)
	システム印刷(株)	広島	(株)ミヤプロ
	(株)ウエマツ		(株)ミドリ印刷
	(株)白橋	福岡	
	文唱堂印刷(株)		
	水上印刷(株)		